

英 語 科 授 業 案

日 時	平成 28 年 3 月 7 日 (月) 2 校時
生 徒	2 年 B 組 男子 16 名, 女子 16 名 計 32 名
授 業 場	2 年 B 組 教室
授 業 者	造 田 あ か ね

1 単元名 *Sunshine English Course 2* Program11 Yui – To Share Is to Live.

2 単元について

(1) 単元観

本単元 Program11 では白川郷を題材に受け身の学習をする。受け身は be 動詞＋過去分詞を用いて表されるが、過去分詞は本単元において初めて出会う分詞である。これまでに 1 年生 Program9 で現在分詞を学習しているため、動詞が特定の形に変わること異なる意味をなすという知識はあるが、過去分詞は過去形と同じ形をとるものも多く、既習事項と混同しやすい学習事項である。しかし語順については第 1 文型 (主語・動詞) をとることが多いので、シンプルである。そこで、初出の過去分詞を用いる受け身であっても、ワークシートや授業で語順を意識させることで、自己表現できるようになると考える。

本単元の教科書本文では、白川郷が扱われている。生徒にとってなじみのない場所ではあるが、引火しやすいとかやぶき屋根の特性を踏まえた住民の防火意識の高さなど、新鮮な驚きを感じることができる題材である。また、合掌造りに使用されている材料や、雪で覆われた屋根についての説明を通して受け身の使用場面を学ぶことができる。白川郷のみならず、場所や建物・景色を説明する際は、建築年や材料・用途などについて受け身を用いて説明する必要性が生じやすい。そこで、本単元では生徒を”FUNESCO”という架空の団体職員に見立て、新世界遺産を推薦する文章を作成し、互いに読み合って選定する課題を設定した。これによって本単元で学習する受け身の使い方と使用場面を使いながら学ぶことができると考えた。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

以上のことを踏まえ、次のような手立てを講じる。

①単元の中に既習事項を用いて、相手意識を高める課題を設定する **A**

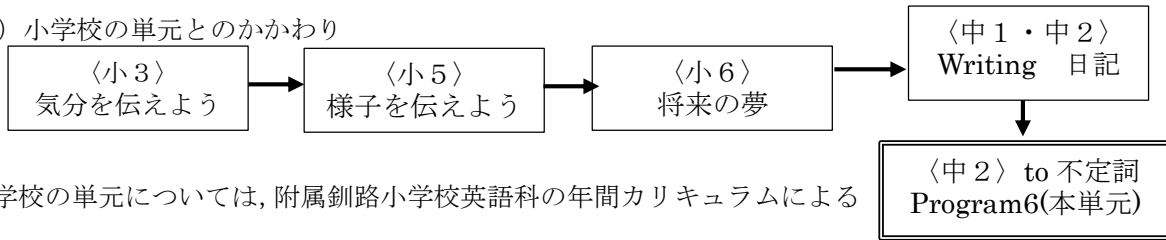
本単元では、本校の 3 年生に宛て職場体験の報告書を作成し、読んでもらうことを課題として設定する。昨年職場体験を行った 3 年生という存在を意識させることで、単に何をしたかという事実のみを羅列するのではなく、学んだことや感想など、多様な表現が求められるようになる。また、辞書に頼った英文では、3 年生であっても理解してもらえない可能性を伝え、既習事項を活用する必然性を感じつつ自分の考えや気持ちを表現するだろうと考えた。

②既習事項を用いて自己の考えを表現するための見通しを記述させる **B** (研究変数)

英語で表現をする際、生徒が伝えたいことと実際に表現できることには大きなギャップがある。しかし、完全では無くても既習事項を用いれば、ある程度は表現することができる。これに気づかせ、既習事項を活用することができるよう、本時ではマインドマッピング（以下 MM）を活用する。一度作成した MM を、既習事項を念頭にグルーピングし、自分の考えを表現するための見通しを持たせることで、伝えたいことを広げたり、より良い文脈になるよう内容をつなげられるようになると考えた。また、班やクラス全体で考えを交流し、練り合う協働の場を設けることで、既習事項が様々な角度から活用できると気づき、自らの表現にも生かすことができるようになると考える。

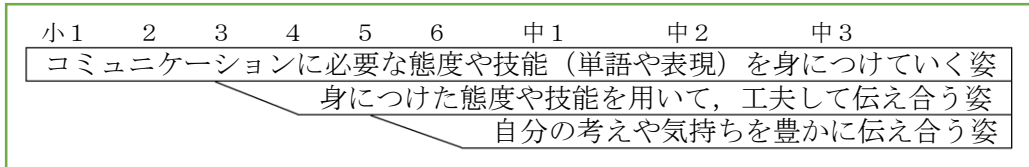
3 小中連携による研究とのかかわり

(1) 小学校の単元とのかかわり



※小学校の単元については、附属釧路小学校英語科の年間カリキュラムによる

(2) 小中9年間で英語科で育む「自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒」の姿



4 単元目標

受け身を用いた文の構造を理解し、受け身と既習事項を活用して場所や景色をクラスメイトに推薦する英文を書くことができる。

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
ア ものや人がされていることを積極的に聞いたり話したりしている。 イ 既習事項を積極的に活用して、場所や景色を詳しく伝えようとしている。	ア ものや人がされていることやされたことを書いたり話したりすることができる。 イ 場所や景色の概要や魅力についてまとまりのある英文を書くことができる。	ア 歴史的な建造物。	ア 受け身を用いた文の構造を理解している。

6 単元計画

時	学習事項	主な学習活動・ 手立て	評価			
			関	表	理	知
1	新世界遺産認定を目指して推薦文を書こう A					
2	Program11 §1 ・受け身	・新世界遺産に推薦する英文を作成する。 ・身の回りのものがどこで作られているか対話する。 ・白川郷を説明する英文を読み、自分の推薦文に取り入れたい表現を加える。	ア	ア		ア
3						
4	Program11 §2 ・「～によって」という行為者を明らかにした受け身	・文学作品や歴史的建造物がいつ、誰によって作られたか説明する。 ・白川郷を説明する英文を読み、自分の推薦文に取り入れたい表現を加える。 B	ア	ア		ア
5						
6	Program11 §3 ・場所や景色を紹介する文の構成	・白川郷を紹介する英文を読み、自分の推薦文に取り入れたい表現を加える。 B	ア	ア		ア
7	POWER-UP Listening3	・旅行ガイドの説明を聞いて、概要から詳細へと理解を深め、わかった情報をもとに金閣寺を説明する。 ・自分の推薦文に取り入れたい表現を加える。 B			ア	
8	Program11 のまとめ	・これまでに集めてきた表現をもとに報告書を書く。 ・班で推薦書の構成や表現を練り合う。 B ・推薦書を読み合い、新世界遺産を選考する。	イ	イ	ア	
9						
10 (本時)						

7 本時案

(1) 本時の目標

職場体験の報告書作成に必要な表現や文法について、to 不定詞や接続詞などの既習事項を活用しながら、班で状況や気持ちをより詳しく説明する報告書を練りあい、自らの報告書の構成を改善することができる。

(2) 本時の展開 (本時 9/12 時間) (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手立て	【評価方法】・備考
<p>1 報告書の構成を考えて発表することができる。</p> <p>・体験場所・体験内容 ・学んだこと・感想</p>	<p>○報告書にはどんなことを書けば良いでしょう。</p>	<p>【発表】</p>
<p>2 報告書の読み手を意識して報告書の内容や表現を工夫する必要性を発表することができる。</p> <p>・単調にならないよう、色々な文の形や表現を使う。 ・to 不定詞や接続詞を使うと1文で詳しく説明できる。</p>	<p>○ (主語が I ばかり, 「主語・動詞・目的語/補語」が連続する単調な例を示し,) この例文を読んでどのような感想を持ちましたか。</p> <p>○ どのような工夫をすれば読み手の心を動かす報告書にすることができますか。</p>	<p>【発表】 教師が提示した悪い例を提示</p> <p>I went to a supermarket. I said Irasshai-mase. I stood at the door. I learned a lot of things. I was tired.</p>
<p>3 教科書の登場人物の職場体験に関するマッピングをもとに、報告文を書くことができる。</p>	<p>○教科書やワークシート等を読み返しながら、このマッピングから報告文を書きましょう。</p> <p>①マッピングの中にランダムに書かれている語句の中から、1文にまとめられる語句を囲み、グルーピングする。 ②グルーピングしたものに番号を振り、文章構成を考える B ③構成に従って英文を書く</p>	<p>個【ワークシート】 マッピングを配付</p>
<p>4 班員の考えを聞きながらより良い報告書の内容や表現方法を考え、意見を言うことができる。</p>	<p>○班で読み手の心を動かす一つの報告書を作りましょう。</p> <p>□班で作成した報告書を発表しましょう。</p> <p>△より多くの情報を1文に入れることはできますか。</p>	<p>班【観察】</p> <p>全体【発表】</p>
<p>5 自分の報告書を作成するための構成をし直し、発表することができる。</p>	<p>□これまでに作成してきたマインドマップをグルーピングしましょう。</p> <p>□どのような構成になったか発表しましょう。</p>	<p>【ワークシート】</p> <p>・個 ・全体</p>

